♪鳥大附小　研究通信♪　③

2018年7月

７月６日，７日は，附属中学校と附属幼稚園の研究大会に参加しました。本校が進めている研究が，「幼・小・中」と連続する研究の中の一つでもあることを改めて確認する機会となりました。

附属中学校は，「やりくり」という言葉をキーワードに研究を進めています。これは，「創造する力の育成」というようなことです。本校が研究している各教科・領域それぞれの特有の学びで習得した力が土台となって，附属中学校での「活動を新たに創り出す力」へつながっていくことが明確になりました。

附属幼稚園は，遊びや生活の中での様々な感情体験を通して思考力を育むことを研究しています。各年齢での「思考力の芽生え」の発達を受けて，本校での各教科・領域の特有の学びにどうつないでいくかを視野に入れた研究にしていかなければならないことを認識することができました。

鳥取大学附属４校園は共通テーマのもと研究を進めていますが，各校園と連携しながら，本校は本校の立場での研究を深めていきます。そして，秋の研究発表大会では，そこまでの研究で見えてきたことを発表したいと思います。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

授業研究会の実際

体育科（7月10日）

夏目教諭が，６年２組の体育科で研究授業を行いました。得意・不得意がはっきりと分かれてしまう「とび箱運動」の学習において，単元の後半に「グループとび箱」を取り入れることで，友達と運動の楽しさを感じ，進んで活動に取り組むことができることをねらった授業でした。体育科では，運動の楽しさをとらえる視点として「わかる・できる・かかわる」を合言葉にして授業を展開しています。このように視点を明確にした授業構成が，子どもたちの活動に有効となっているかどうかの検証をしていくことで，他領域での研究にもつながっていくと考えています。

研究日の実際

プログラミング教育研修（6月25日）

プログラミング教育についての職員研修を行いました。本来，プログラミング教育は，全教科・領域において行われるものと位置づけられています。また，各学年においてどのような力を積み重ねていくべきなのかを明確にする必要性も求められている現状があります。本校のプログラミング教育での系統性のある全体計画を作成し，他校へ発信できるように研究を進めています。

研究論文の書き方の研修（7月2日）

本校は，“「附属校」としての立場”を意識して研究に取り組んでいます。その中で，これまで本校が研究のまとめとして作成してきた「実践記録集」のスタイルを変更していくことも検討しているところです。

そこで，本校校長でもある鳥取大学農学部の小玉芳敬先生に，研究論文の書き方についての教示を受けました。論文の基本的なスタイルとして「効率的により正確な情報を伝えるためのルール」を学ぶことにより，「研究」とはどのように進めていくものであるのかを再認識することができました。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

鳥取大学附属学校部では，附属４校園が取り組んでいる教育研究の「今」を地域へ情報発信する手段の一つとして，昨年度より『ふぞく研究ラウンジ』という広報紙を発行しています。本校の研究や他校園の研究とのつながりを少しでも知っていただけるのではないかと期待します。

「まずは知っていただく」ことを目標に，今後もこの『鳥大附小　研究通信』を通して，本校の研究の「今」をお伝えしていきたいと思います。

（研究主任　多内　京子）